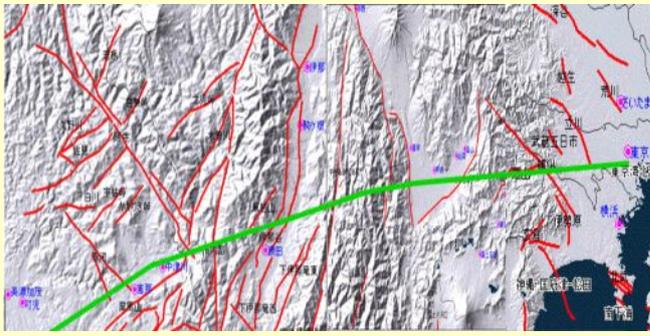


NO! リニア

No. 9
2009年10月30日
JR東海労働組合
リニア反対プロジェクト

活断層銀座を横断するリニア! 東海地震対策になるのか?

リニア建設ルートは、多くの断層を横断します（上図参照）。特に、A・B・C各ルート問わず、恐竜時代からの中央構造線や糸魚川-静岡構造線と呼ばれる大断層を通過しなければなりません（中図参照）。



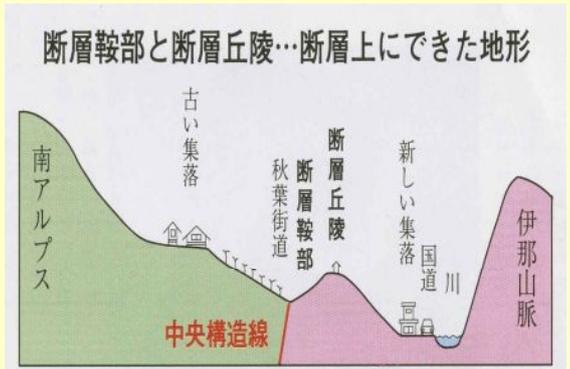
赤線は活断層、緑線はリニアCルート

断層の大規模なものを構造線とい
い、断層は地震等によって岩石に力がかかり割れてずれることで作られます。中央構造線は、1,000km以上ある日本で一番長い構造線で年間4mmづつ隆起し現在も活動している断層です（下図参照）。

そのため断層の周りの岩石が壊され破砕帯と呼ばれる極めて脆弱な地層を作っています。



会社は、リニア建設の目的の一つに東海地震対策を上げていますが、建設ルートは現在も活動している地震帯なのです。このような箇所では地震が発生した時は、強い揺れと地震断層によって地盤の食い違いが発生します。その時、トンネルはどうなるのでしょうか。



会社が建設予定地として地質調査のボーリングを行った大鹿村は、1961年に大規模な斜面崩落が発生し集落を呑み込み、42名が亡くなった地盤が特に脆弱な地域です。しかし会社は、安全対策について一切明らかにしていません。